
資料 2

第 2 回検討委員会の主な意見とその対応

目 次

2.1 第 2 回検討委員会の主な意見とその対応.....	資料 2-1
-------------------------------	--------

2.1 第 2 回検討委員会の主な意見とその対応

第 2 回検討委員会の主な意見とその対応-1

検討委員会の主な意見	対 応
▶ 試験施工方針について	
<ul style="list-style-type: none"> ・上流域には常時種子が供給されている。山林の擁壁等に植えられているシナダレスズメガヤなども対象になるのではないか。その検討は今回は行わないのか。(曾良委員) 	<p>→既に河川内にシナダレスズメガヤが繁茂し、そこが種子の供給源になっているという現実を踏まえると、まずは川の中で何ができるのかを検討していきたい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・どこに復元目標を持っているのか。(鎌田委員) 	<p>→何年代を復元目標とするというよりも、水位変動により激しく移り変わる環境条件を確かめるため、物理的条件として水深を複数設定して、モニタリングを行っていくということが、本調査の趣旨である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・減速要因となる樹木について、伐採する場所、残す場所をそれぞれ設けるとともに、水深を変えながら樹木を残す位置も変えていったほうがいろいろなことがわかるのではないか。(鎌田委員) 	<p>→試験区 2 の下流側にヤナギが多い場所があり、そこにコドラートを設定した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・抜き取り調査は、株の大きさと抜くのに必要な力をバネで測るのか。(鎌田委員) 	<p>→抜き取り調査では、要する力をバネで測るというよりは、どこまでの大きさの株なら抜くことが可能であるかの記録をとりたいと考えている(ただし、その後シナダレスズメガヤがほとんど消失したため、この実験は中止とした)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・上流部のシナダレスズメガヤの種子や株が抜けて流れてくる場合に、(上流側の)試験区 1 のほうが流れ着く可能性は大きいということとは考えられるか。(森本委員) 	<p>→風により種子が半径どのぐらいの距離飛ぶかということについてはよくわからないが、洪水により流される場合は差はないと考えられる。</p>

第 2 回検討委員会の主な意見とその対応-2

検討委員会の主な意見	対 応
<ul style="list-style-type: none"> ・風を考えると下から上に広がることも考えられるため、試験区 2 の測線を試験区 1 側に寄せるというのはいかがでしょうか。(鎌田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> →試験区 2 の測線については、もう少し上にすることは可能である。
<ul style="list-style-type: none"> ・試験区 1 と 2 は最初の抜き方が違うだけで、施工後の地表面の状態は同じになると考えていいか。(鎌田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> →試験区 1 は基本的に表土も剥ぐので地盤が出る。試験区 2 は抜くことになるので、表層に細かい土砂が一部残るといことはある。
<ul style="list-style-type: none"> ・コドラートの数はこれが限界か。(鎌田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> →コドラートを分割するなどにより数を増やすことは可能である。
<ul style="list-style-type: none"> ・埋没により枯死することが明らかになった場合、管理論として使えるのか。(鎌田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> →比較的高いところは、元々の河原に戻すことは非常に難しいため、そのような場所のシナダレを枯死させるという意味においては有効な手段になり得る。 →川岸に近い場所に土砂を置くことについては、議論の余地がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・埋没実験をする際に、どれぐらいまでであれば発芽するか等、まだ知見が少ないことを確かめてほしい。(鎌田委員) ・実際に管理をしようとする、何センチ埋めたら枯死するか等、複数の条件を設定する必要がある。50cm のみでは管理には活かさない。(鎌田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> →もとの地形を測り、盛った高さを調べることを考えている。
<ul style="list-style-type: none"> ・シナダレの量は洪水のたびに変化するため、洪水の直前にどれぐらいの量があったかを見積もれないと、洪水の前後について比較できない。(鎌田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> →定期的に写真を撮ることを考えている。 →どのような環境にシナダレが侵入してくるかということをもまず最低限押さえない。